

洗 剤 等 の 出 荷 実 績 概 況

2021年（令和3年）1月～12月
（出荷単位：t・%：前年同期比）

2021年度（1～12月）日本クリーニング用洗剤同業会（以下当同業会という。）に加盟する15社の出荷実績は34,957トン・前年比で1,336トン減の96.3%となりました。

上期（1～6月）は16,695トンの出荷で前年比621トン減の96.4%、下期（7～12月）は18,262トンの出荷で前年比715トン減の96.2%となりました。

当同業会の出荷実績は、2019年までは5年連続の出荷増でありました。しかしながら、2020年から新型コロナウイルス感染症拡大の影響を大きく受けてホームクリーニング分野・テキスタイルリネン分野とも市場が低迷した結果、出荷減に転じ、2021年も減少が継続しました。

尚、本年度から加盟15社の出荷実績となっております。

出荷実績 項目 / 期・前年比	2019年 (16社)	2020年 (16社)			2021年 (15社)					
	年間	上期	下期	年間	上期	前年比	下期	前年比	年間	前年比
ドライクリーニング用洗剤(パーク系)	124	54	47	101	42	77.8%	40	85.1%	82	81.2%
ドライクリーニング用洗剤(フツソ系)	42	18	17	35	16	88.9%	12	70.6%	28	80.0%
ドライクリーニング用洗剤(石油系)	953	438	355	793	397	90.6%	340	95.8%	737	92.9%
ドライ合計	1,119	510	419	929	455	89.2%	392	93.6%	847	91.2%
ランドリー用石鹼	246	116	104	220	90	77.6%	99	95.2%	189	85.9%
ランドリー用合成洗剤(粉末)	19,131	7,162	7,517	14,679	6,611	92.3%	7,070	94.1%	13,681	93.2%
ランドリー用合成洗剤(液体)	13,099	5,511	6,251	11,762	5,605	101.7%	6,147	98.3%	11,752	99.9%
ランドリー用合成洗剤合計	32,230	12,673	13,768	26,441	12,216	96.4%	13,217	96.0%	25,433	96.2%
ランドリー用ソフター合計	6,587	2,730	3,198	5,928	2,722	99.7%	3,177	99.3%	5,899	99.5%
（うち濃縮タイプ）	1,014	397	470	867	396	99.7%	464	98.7%	860	99.2%
ランドリー用粉末漂白剤	1,284	523	584	1,107	512	97.9%	565	96.7%	1,077	97.3%
再販用合成洗剤合計	1,089	436	562	998	434	99.5%	522	92.9%	956	95.8%
（うちコンパクト）	485	176	257	433	170	96.6%	251	97.7%	421	97.2%
合成糊剤	850	328	342	670	266	81.1%	290	84.8%	556	83.0%
期総計・前年比	43,405	17,316	18,977	36,293	16,695	96.4%	18,262	96.2%	34,957	96.3%

当同業会の顧客は、①ホームクリーニング②テキスタイルリネンサプライ（リネンサプライ・病院寝具・ダストコントロール・ダイアパー4団体）③おしぼり業者④施設ランドリー（コインランドリー含む）であり、洗剤メーカーの立場から顧客概況を含めご報告致します。更に、項目別出荷概況を報告いたします。

1. ホームクリーニング市場

ホームクリーニングは、2021年度1～12月度の総務省統計局『家計調査報告』洗濯代によると全国・（二人以上の世帯）のクリーニング代支出額は、4,219円で前年比441円減の90.5%となりました。2011年の7,285円から4割以上減の57.9%となっており、減少が継続しております。

これまでを振り返ると2005年に始まったクール・ビズは定着し、2019年に提唱されたビジネスカジュアルも定着化しております。更に企業の働き方改革の一環として推進されてきた在宅勤務は、コロナ感染症拡大により一気に加速し、ホームクリーニング市場に大きな影響を与えているものと推察しております。今後のホームクリーニング市場動向を把握し、対策を講じることが重要と考えております。

2. テキスタイルリネンサプライ市場

一1) ホテル分野

ホテルリネン分野は、新型コロナウイルス感染症拡大の前までは、海外訪日者数の増加や2020 東京オリンピック・パラリンピックに向け、都市圏を中心にホテルの施設数が増加するなど、市場規模も拡大し、大いに期待された分野でありました。しかし、コロナ感染症の影響を受けて海外訪日来客数は激減、東京オリンピック・パラリンピックも無観客開催、国内旅行者も行動規制により減少し、客室稼働率が大きく減少する結果となりました。

日本政府観光局（JNTO）調査報告の推定値によると、海外訪日来客総数は2019年3,188万2100人に対し、2020年411万5900人、2021年は24万5900人と大幅な減少となっています。2020 東京オリンピック・パラリンピック実施前後の4月～9月は前年こそ上回ったものの、2019年には遠く及ばず、リネンサプライヤーへのオリンピック開催による恩恵も限定的であったものと推察します。

また、観光庁の宿泊旅行統計調査の速報値でも、年間の宿泊施設全体の客室稼働率は35.4%（対20年+0.2%、対19年-28.2%）と前年並みであり、厳しい市場環境が継続しております。

一2) 病院リネン関連・ダイアパー分野

①病院リネン関連（病院寝具・ダイアパー「貸しオムツ」）市場に大きく関連する病床数は、厚生労働省医療施設調査によると、総病床数は、2020年12月末と2021年12月末の比較で、159.6万病床が158.1万病床と1.5万病床が減少しております。また、病院病床数は151.0万病床が149.8万病床と1.2万病床減と減傾向が継続しております。ここ数年の当分野の傾向として、上記病床数減少による基準寝具の微減分を、入院患者の私物洗濯、医療作業従事者のユニホーム洗浄、1日単位で入院患者にレンタルする入院セット等の需要の伸びでカバーしており、比較的安定的であると推察しておりました。しかしながら、病床減に加え、2020年からはコロナ感染症拡大の影響で入院患者を絞る動きもあり、病院リネンも微減しているものと推定しております。

寝具類は医療事業機関等から衛生に対する要望が高まっており、今までも当同業会は除菌・抗菌剤の提供等衛生に関する支援を行ってまいりました。更に抗ウイルスへの対策も求められつつあり、当同業会としても、課題解決に取り組んでまいります。

②ダイアパーは病院寝具以上に減少し、貸しオムツから紙オムツへの移行が継続しております。入院患者に対し貸しオムツと使い捨て紙オムツの提供を展開するも、スーパー・ドラッグストアの安価品購入も減少傾向の大きな要因と推察致します。

一3) ダストコントロール分野

ダストコントロール分野はテキスタイルリネンサプライ市場の約半分を占める分野ですが、景気停滞による需要の減少傾向が継続しております。リース離れや交換期間の延長、家庭向けモップリース製品は他流通からの購入へ移行、更に他のリネン分野からの参入などにより、価格競争が激化し厳しい分野環境が長期化していると推察致します。しかしながら当分野はコロナ感染症の影響は比較的小さかったと推定しております。特に、この分野は、マット・モップの使用上の特徴から超ハード汚れを洗浄する技術が求められており、更に多種多様な素材変化に対応していく事も近年重要になりつつあります。当同業会としては、リース品の耐久性も含め高度な洗浄技術を提供し、課題解決に向けた取組を実現したいと考えます。

3. おしぼり・施設ランドリー（コインランドリー含む）分野

おしぼり分野は、新型コロナウイルス感染症の影響による、外食産業の営業自粛・時短営業要請により、おしぼりの使用場面が激減し、ホテルリネン同様に最も苦戦した分野となりました。また、企業の働き方改革（テレワーク）が進む中で、飲食店の来客数は減少する可能性があると思われ、厳しい市場環境は継続する可能性があるかと推察します。一方、この分野は特に衛生意識の高さが定着しつつあり、今後の市場動向を見守りたいと考えております。

施設ランドリー分野は、コインランドリーが安定的に推移していると推定しております。また、老健施設等の自家ランドリー（OPL）においては、新型コロナウイルス感染症の影響は少なく、安定した分野であったと推察します。本分野における今後の市場動向としては、衣類の衛生意識が高まる中で家庭洗濯同様に抗菌配合洗剤・柔軟剤へのブランドスイッチが進んでいくものと推察しております。

4. 2021年度総計・タイプ別出荷状況報告

- 1) ドライ用洗剤

出荷実績 項目 / 期・前年比	2019年 (16社)	2020年 (16社)			2021年 (15社)					
	年間	上期	下期	年間	上期	前年比	下期	前年比	年間	前年比
ドライクリーニング用洗剤(パーク系)	124	54	47	101	42	77.8%	40	85.1%	82	81.2%
ドライクリーニング用洗剤(フッソ系)	42	18	17	35	16	88.9%	12	70.6%	28	80.0%
ドライクリーニング用洗剤(石油系)	953	438	355	793	397	90.6%	340	95.8%	737	92.9%
ドライ合計	1,119	510	419	929	455	89.2%	392	93.6%	847	91.2%

ドライクリーニング用洗剤合計は前年比で82トン減の847トン(前年比91.2%)となり、上期・下期共に前年割れの出荷実績でありました。長期的な縮小傾向が継続しております。

パーク系は、前年比で19トン減の82トン(前年比81.2%)で、年間出荷量が100トンを超えませんでした。減少傾向に歯止めが掛かからず、パーク系ドライ市場は非常にきびしい状況となっております。

フッソ系は、前年比で7トン減の28トン(前年比80.0%)となり、ここ数年のトレンドである減少傾向が継続しており、パーク系同様に厳しい状況となっております。

石油系は、前年比で56トン減の737トン(前年比92.9%)と、石油系の減少傾向も継続していくと推察しております。

『新しい取扱い表示記号』の施行による、洗濯方法を表示記号に応じたウェットクリーニングへ移行する広がりも可能性があると推察します。

- 2) ランドリー石鹼

出荷実績 項目 / 期・前年比	2019年 (16社)	2020年 (16社)			2021年 (15社)					
	年間	上期	下期	年間	上期	前年比	下期	前年比	年間	前年比
ランドリー用石鹼	246	116	104	220	90	77.6%	99	95.2%	189	85.9%

ランドリー石鹼は前年比で31トン減の189トン(前年比85.9%)となり、減少傾向が継続し、長期的にランドリー用合成洗剤への移行が進んだ結果と推察致します。当同業会の課題として、出荷量の減少は製造コスト高になり、安定供給を果たす為には価格改定をお願いするケースもあると考えております。

- 3) ランドリー用合成洗剤

出荷実績 項目 / 期・前年比	2019年 (16社)	2020年 (16社)			2021年 (15社)					
	年間	上期	下期	年間	上期	前年比	下期	前年比	年間	前年比
ランドリー用合成洗剤(粉末)	19,131	7,162	7,517	14,679	6,611	92.3%	7,070	94.1%	13,681	93.2%
ランドリー用合成洗剤(液体)	13,099	5,511	6,251	11,762	5,605	101.7%	6,147	98.3%	11,752	99.9%
ランドリー用合成洗剤合計	32,230	12,673	13,768	26,441	12,216	96.4%	13,217	96.0%	25,433	96.2%

ランドリー用合成洗剤(粉体)は、ここ数年は微減傾向でありましたが、2020年に新型コロナウイルス感染症拡大の影響を受け、4,452トン減の前年比76.7%と大きく出荷減に転じました。2021年もその影響が継続し、998トン減の13,681トン(前年比93.2%)と大きく減少しました。これは、新型コロナウイルス感染症の拡大により、経済活動が規制を受け、ホテル客室稼働率の激減と外食産業の自粛により、ホテルリネンサプライヤー・おしぼり業者の稼働が大きく落ち込んだためであると推察いたします。

ランドリー用合成洗剤（液体）は、2020年に1,337トン減の89.8%と大きく減少しましたが、2021年は10トン減の11,752トン（前年比99.9%）とほぼ前年を維持する出荷実績となりました。前年をほぼ維持した要因としては、施設ランドリー・コインランドリーが比較的安定であったこと、また、リネンサプライヤーで粉末タイプから液体タイプへの移行が進んでいるためと推定します。

今後も液体洗剤を使用するコインランドリーや老健等の施設での自家ランドリー向けの出荷が安定的に推移する事、また、ホテル・病院寝具分野等のリネンサプライヤーでの液体洗剤類の自動投入機対応が増加することにより、液体洗剤は今後も増加していくものと予測しております。自動投入機対応に関しては、リネンサプライヤーがトータルコストメリットや生産安定化につながると判断するケースが増えつつあり、今後も、粉末洗剤から液体洗剤への移行はさらに進んでいくものと推察しております。

ー 4) ランドリー用ソフター・漂白剤・合成糊剤

出荷実績 項目 / 期・前年比	2019年 (16社)	2020年 (16社)			2021年 (15社)					
	年間	上期	下期	年間	上期	前年比	下期	前年比	年間	前年比
ランドリー用ソフター合計	6,587	2,730	3,198	5,928	2,722	99.7%	3,177	99.3%	5,899	99.5%
（うち濃縮タイプ）	1,014	397	470	867	396	99.7%	464	98.7%	860	99.2%
ランドリー用粉末漂白剤	1,284	523	584	1,107	512	97.9%	565	96.7%	1,077	97.3%
合成糊剤	850	328	342	670	266	81.1%	290	84.8%	556	83.0%

①. ランドリー用ソフターは、2020年は659トン減の90.0%と大きく減少しましたが、2021年は29トン減の5,899トン（前年比99.5%）とほぼ前年を維持しました。この要因はランドリー合成洗剤液体タイプと同様の理由であると考えております。なお、濃縮タイプは前年比7トン減の860トン（前年比99.2%）の出荷量となりました。

②. ランドリー用粉末漂白剤は、2020年は177トン減の86.2%でありましたが、2021年も30トン減の1,077トン（前年比97.3%）となり、近年の減少傾向が継続しております。粉末漂白剤の主なユーザーであるホームクリーニング市場の縮小傾向と連動しているものと推察しております。

③. 合成糊剤は、2020年は180トン減の78.8%でありましたが、2021年も114トン減の556トン（前年比83.0%）と大幅な減少が継続しております。シーツやカッターシャツ・ワイシャツ等に対し、ソフトな仕上げが好まれる傾向にあり、出荷量は今後も減少していくものと予測しております。

ー 5) 再販用合成洗剤

出荷実績 項目 / 期・前年比	2019年 (16社)	2020年 (16社)			2021年 (15社)					
	年間	上期	下期	年間	上期	前年比	下期	前年比	年間	前年比
再販用合成洗剤合計	1,089	436	562	998	434	99.5%	522	92.9%	956	95.8%
（うちコンパクト）	485	176	257	433	170	96.6%	251	97.7%	421	97.2%

再販用合成洗剤は、2020年は前年比91トン減の91.6%でありましたが、2021年も42トン減の956トン（前年比95.8%）となりました。減少幅は2020年より縮小したものの、長期の減少傾向に変わりはないと推察致します。

1994年頃はプロが推奨する洗剤として、店頭・訪問販売により安定的な出荷でありましたが、年々市販品との競争が激化し、衰退項目となっております。濃縮タイプも前年比12トン減の421トン（前年比97.2%）と減少が継続しております。市販の粉末合成洗剤の低価格、利便性に加え、他流通からの液体洗剤参入の影響を受け、このトレンドは継続するものと推察します。

5.まとめ

当同業会の2021年度の出荷総計は34,957トン・前年比で1,336トン減の96.3%という結果でありました。2020年に引き続き新型コロナウイルス感染症の影響を受けた年となり、経済活動・消費行動・働き方改革などの変化により、洗剤等の出荷量減に影響を与えました。

期待された2020東京オリンピック・パラリンピックは無観客開催となり、訪日外国人の来客数も2020年からも減少し、インバウンド効果も期待できない状況が継続した年でありました。

ホームクリーニングの長期低迷、特にドライクリーニング用洗剤の下落傾向は深刻に捕らえております。また、最近の新型コロナウイルス感染症がクリーニング業界に与える影響は、深刻な状況と捉えており、今後も対応について、慎重に見極めて参りたいと考えております。

また、直近の世界状況が経済へ与える影響は大きく、クリーニング業界も厳しい市場環境にさらされていくものと予測され、慎重な対応が必要となっていくものと考えております。

当同業会14社は洗浄技術を更に発展させ、消費者動向・業界変化に敏速に対応し業界発展に貢献致します。

以 上